

授業科目名： 異文化間コミュニケーション	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： Daniel Woods 担当形態： 単独
実務内容 (実務家教員の場合)	元横浜市教育委員会英語指導主事助手 公立中学校での英語指導に関して、ネイティブの立場から教員研修に携わる。また、私立中学校・高校において英語を用いたコミュニケーションに関する指導も継続して行っている。		
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる（専門知） DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）</p>			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化コミュニケーションを考える際に基本となる視点や理論を理解する。 ・他者への共感と他者理解の重要性について考えを深める。 ・自文化を相対的に捉える視点を養う。 ・異文化コミュニケーションに資する実践的なコミュニケーション能力を身に付ける。 			
<p>授業の概要</p> <p>異文化と適切な英語について学びます。 経験とそこから学んだことを共有します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：現代社会と異文化間コミュニケーション 第3回：コミュニケーションとは 第4回：コミュニケーション・ギャップ①：非言語コミュニケーション（テキスト Unit 1~3） 第5回：コミュニケーション・ギャップ②：非言語コミュニケーション（テキスト Unit 4~7） 第6回：コミュニケーション・ギャップ③：言語コミュニケーション（テキスト Unit 8~11） 第7回：コミュニケーション・ギャップ④：言語コミュニケーション（テキスト Unit 12~15） 第8回：カルチャーショック①：カルチャーショックとは 第9回：カルチャーショック②：自身の体験の整理 第10回：異文化体験（発表と討議）①：ガイダンス 第11回：異文化体験（発表と討議）②：自己紹介 第12回：異文化体験（発表と討議）③：異文化についてのクイズづくり 第13回：異文化体験（発表と討議）④：クイズの提示と討議 第14回：自文化を相対的に捉える視点 第15回：まとめ（学んだことを整理し、今後の課題を明らかにする） 定期試験</p>			
<p>スクーリングでの学修</p> <p>スクーリングでは第10回～第13回を中心に、すべての内容を包括的に取り上げる。</p>			
<p>テキスト</p> <p>八代京子 / Cecilia Ikeguchi / Robin Sakamoto 著 (2013) "What do you mean? Exploring communication Gaps", KINSEIDO, 978-4-7647-3961-1</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>Scott Berlin・小林めぐみ (2011) 『World Adventures DVDで学ぶ世界の文化と英語』金星堂、978-4-7647-4133-1</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）</p>			